

平成6年3月卒業

第64期

平成4年秋季～5年夏季



チーム紹介

投手陣がカギ握る

投打に圧倒的な力を見せ戦国大会を制した昨年に比べると、チームの総合力は落ちる。ノーシードから挑戦者として再出発する今回は、目の前の敵を一つずつつぶして勝ち上がることが目標だ。

カギを握るのは何とんでも投手陣。福岡、木藤の2人いるが、どちらもやや安定性に欠ける。福岡は速球を武器に、木藤は多彩な変化球で勝負するタイプだが、ともに微妙な制球に気を配る必要があるようだ。

一方の打線は大物打ちはいないが、連打で畳み掛けるのが持ち味。中でも昨年の大会も経験した池端、唐土らのバットに期待がかかる。15試合で盗塁65を記録、機動力に優れているが、逆に51失策を重ねた。堅実なプレーを心掛け、多彩な攻撃で突破口をつくりたいところ。

「自分たちにできるプレーを確実に決めていく」を合言葉に、ディフェンディングチャンピオンは、一からのスタートを誓っている。

◎平成4年

・秋季県北

能代8－3花輪

能代6－11能代商

◎平成5年

・春季県北

能代4－8大館

・能代選抜

能代6－4秋田修英

能代3－8金足農

・全県大会

能代9－8秋田西

能代4－3羽後

能代12－13五城目

五城目	0	7	4	1	0	0	0	0	1	13
能代	0	0	1	5	0	2	0	2	2	12

(五城目) 小林・沢田石一菅原

(能代) 福岡・今村・福岡一唐土

〈部長〉 戸松 恭一・渡部 嵩

〈監督〉 納谷 聡

〈部員〉 3年生

◎唐土 貴弘	千葉 祐幸
伊藤 元一	伊藤 宏
戸沢 貴洋	佐藤 大
浜野 達朗	竹内 高志
池端 裕司	八代 真啓
田中 洋一	



平成7年3月卒業

第65期

平成5年秋季～6年夏季



チーム紹介

ミート打法で勝負

投手陣は右の本格派・福岡、左の技巧派・今村ら5人を擁する。軸となる福岡はストレートとスローカーブのコンビネーションが身上で、能代市リーグの能代西戦では5回参考記録ながらノーヒットノーランを達成した。昨年秋の全県大会では経付・小野と互角に投げ合っており、福岡の出来が試合を大きく左右しそう。

攻撃では、全員コンパクトな振りでミート打法に徹する。1、2番の出塁率が高く、塁に出るとすかさず盗塁し、後続につなぐというパターン。今季3割台の打率を残しているのは佐藤、小沢、井上の3人。佐藤は一発の力があり、小沢は左右に打ち分ける巧打者。

守備に派手さはないものの、全員で粘り強く守り、堅実にアウトカウントを重ねていく。主戦・福岡の踏ん張りに負うところが大きく、全員でもり立て、5度目の甲子園出場を狙う。

◎平成5年

・秋季県北

能代7－0能代商

能代2－1花輪

能代1－7小坂

・全県選抜

能代0－3経大付

◎平成6年

・春季県北

能代6－1十和田

能代3－4能代商

・能代選抜

能代5－1経大付

能代4－7能代工

・全県大会

能代10－11大曲工

能代	0	2	0	0	2	0	0	3	3	10
大曲工	0	1	1	4	0	0	0	0	5×	11

(能代) 今村・堀内・福岡一佐藤

(大曲工) 熊谷一煤賀

〈部長〉渡部 嵩・半田 俊毅

〈監督〉納谷 聡

〈部員〉3年生

◎阿波野孝之 小山内隆寿

木藤 大嗣 小沢 学

福岡 司 後藤 洋平

安田 正和 田村 幸進

鎌田 信之 田山 智治

杉沢 弘二 山谷 大輔

野球を通して

主将 阿波野 孝之

卒業して10年、次第に薄れていく記憶の中で今でも強烈に残っているのが、平成6年夏の県予選での1回戦敗退。

当時の3年生にとっては受け入れ難い結果であり、試合後は皆が呆然とし、負けたという事実を自分達の気持ちの中でどう整理していいのか解らず、涙を流し、青春の幕を閉じた。

就職・進学を控えた一番大事な時期に、ひたすら野球に熱中し、その一日に、一球に一喜一憂した日々の最後に待ち受けていた残酷な結果を受け

止め、皆それぞれの進路への再スタートをきった。

年月が経ち過去を振りかえると、あのとき味わった敗北感・挫折感、勝負の非情さを知り得た事こそが、青春時代の貴重な体験であり、自然と自

分の中の肥やしになっていたのかも知れない。

ドン底からはい上がる強さで、これからの人生試合、上を向いて歩こう。

今でも野球をやってます。



チーム紹介

圧迫感与える打撃陣

【投】 エース堀内智は、右上手投げの本格派。痛めていたひじもよくなり完調に近付いている。左上手投げの今村は、直球、カーブ、スライダーを投げる本格派、コントロールが良く打者との駆け引きにもたけている。能代二中時代、全県優勝投手で、「技術以外の何か」にも期待が持たれる。右下手投げの池田はずばぬけたパワーを持つ投手。技巧派だが直球、カーブ、スライダーすべてにキレがある。このほか、右上手投げの北村と山田も登板に備える。

【攻】 細工はあまりしないが、上位から下位まで相手投手に圧迫感を与えられる打力を持つ。特に1、2、3番はパワーがあるだけでなく、足が速く攻撃の核となる。1番・井上は長打力を秘め左右に打ち分ける。2番・堀内大は状況に応じて何でもできる器用さを持つ。佐々木暁は昨年4番を打ったが打線のつながり重視で今年は3番に入った。4番・鴨田が上半身のパワーではじき返す打球の速さはピカ一。5番・大久保の体の使い方がしなやかでさまざまな球に対応できる。9番・児玉が調子を上げているのが打線のつながりに好影響。

【守】 センスのいい堀内大が2塁を守る。広い守備範囲でグラブさばきもうまく高い技術を身に着

けている。試合の流れや打者の特徴により守備位置を的確に変える判断力もあり、周囲に気を配って指令塔役を果たす。外野は中堅・井上が中心となる。スタートの良さ、足の速さ、フェンス際のうまさには定評がある。左翼・佐々木暁も足が速くて守備範囲が広い。

◎平成6年

・秋季県北

能代10－6 鷹巣

能代12－2 能代工

能代11－7 能代商

決 勝 能代8－0 大館商

(7年ぶり7回目の優勝)

・全県選抜

能代7－4 秋田

能代4－5 経大付

◎平成7年

・春季県北

能代10－3 鷹巣

能代3－0 大館

能代5－6 鷹巣農

・全県選抜

能代5－12 秋田

・能代選抜

能代4－1 大曲

能代10－2 能代商

能代1－3金足農

・全県大会

能代7－0秋田修英

能代4－3秋田中央

能代2－9秋田

秋 田	1	0	1	0	1	0	4	0	2	9
能 代	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2

(秋田) 後藤－佐藤

(能代) 堀内(智)・池田－佐藤

〈部長〉半田 俊毅

〈監督〉納谷 聡

〈部員〉3年生

◎佐藤 大悟	原田 専
鴨田 良秋	井上 知徳
小林 公	池田 公平
児玉 匡史	今村 鋼治
鈴木 友幸	小林 好人
堀内 智也	佐々木 暁
大久保政樹	佐々木正太郎
岸野輪多留	北村虎太郎
長崎 洋平	堀内 大樹



チーム紹介

4年ぶり甲子園狙う

【投】主戦・山田は右上手投げの技巧派で、ストレートとカーブをコーナーに投げ分ける。右下手投げの浅野は威力のあるストレートが持ち味。打者を詰まらせるケースが多い。カーブ、スライダーは切れがよく、コーナーに決まれば左打者でも打ち崩すのは難しい。右上手投げの田中は技巧派。丁寧にコーナーを突いて打者をはぐらかす。スタミナ十分で安定度はピカ一だ。

【攻】一番・小笠原は一発長打の魅力を秘め、伝統の強力打戦にふさわしい先頭打者。2番・桜田、3番・高田と続く上位打線は納谷監督が厚い信頼を寄せている。破壊力抜群の石川はチャンスに強く、船山、近藤、田中らのミートのうまい打者が並ぶ。しぶといバッティングが身上の牧野、清水が上位打線の前に出塁すれば大量得点につながる。控えにも好打者がそろっており、どこからでも得点できるのが強みだ。

【守】コンバートの成果がようやく出てきて、守備はよくまとまっている。守りのかなめは捕手で主将の近藤。野球をよく知っており、絶妙のインサイドワークは技巧派の投手陣を引っ張る。牽制も機敏で、そう簡単には盗塁を許さない。内野は遊撃・高田がまとめている。高田を中心に桜田、清水も堅実で二遊間、三遊間ともに引き締まっている。外野は走力、遠投力があり、投手陣をもり立てる。

◎平成7年

・秋季県北

能代8－7鷹巣

能代7－4大館工

能代3－4大館鳳鳴

・全県選抜

能代4－1経大付

能代5－6大曲

◎平成8年

・春季県北

能代14－8 能代商

能代5－6 大館工

・能代選抜

能代5－2 秋田南

能代3－6 経大付

・全県大会

能代4－2 大館工

能代14－0 西仙北

能代11－1 大館商

能代2－5 金足農

金足農	0	0	0	0	2	1	1	1	0	5
能代	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2

(金足農) 工藤－阿部伸

(能代) 山田・浅野・山田－近藤

〈部長〉半田 俊毅・平野 信行

〈監督〉納谷 聡

〈部員〉3年生

◎近藤 卓也	工藤 善祐
大山 慎也	清水 慎一
桜田 公男	牧野 真也
田中 晃	山田 敦彦
大川 和彦	高田 譲
渡辺 武史	

3年間で得たもの

～これから甲子園を目指す後輩たちへ～

主将 近藤 卓也

平成4年8月当時中学2年の私は阪神甲子園球場のアルプス席にいた。能代高校対佐賀東高校戦を観戦するためである。グラウンドや観客席の広さ、1球1球に沸き上がるどよめきに圧倒された。そして自分もいつかは能代高校のユニフォームに袖を通し、この甲子園に来てプレーしたい。強くそう思い、能代高校硬式野球部の門を叩いたのである。

平成7年、学校は創立70周年を迎えた。創立70周年の年に是非甲子園という空気が漂う中で迎えた夏の大会。当時近年になく強いと言われていた1学年上の先輩たちが3回戦でまさかの敗戦を喫

し、いよいよ私たちが最高学年としてプレーする時が来た。先輩たちが負けたその日、体育教官室に呼ばれ、納谷監督に「明日から覚悟してこい」と一喝され、その翌日から新チームでの練習が始まった。弱いチーム弱いチームと言われ続けてきたが、そう言っている人達を見返したい。自分たちもいい思いをしたい。その一心で頑張った。また何かを変えないと勝てないと思い、部員全員でグラウンド整備することや上級生も率先して掃除することなどを取り入れた。

結局3年間甲子園には行けなかったが得たものは沢山ある。挨拶や礼儀の大切さ、仲間との友情、体力・精神力の向上、その他数えきれないほどある。

あの頃に戻りたい、あそこはああやっていれば勝っていたのと思うことは沢山あるが今となってはもう遅い。青春の3年間は一度きりだ。そう考えれば今の硬式野球部員やこれから能代高校硬式野球部に入ってくるだろう小学生や中学生はまだまだ可能性を秘めている。2度とない3年間、硬式野球部員として青春を謳歌してほしい。また毎日色々な世話をしてくれるお父さん・お母さん、一緒にプレーする仲間、先輩や後輩、その他沢山の人たちの協力があって初めて野球ができるのだという感謝の心を大事にしてほしい。

近い将来、またあの甲子園で応援できる日を楽しみにしている。頑張れ後輩たちよ！

